

聖書:エペソ人への手紙4章17~24節

説教:新しい人を着る

はじめに

ここで言っていることを、ひとことでまとめればこうなります。「古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着ることにより、私たちは成長してきます。」服であればわかりますが、人を脱いだり着たりするのは、ちょっと不思議な表現です。

このことで思い出すのは、自分が中学校に入学してはじめて学生服を着たときのことです。子どもの服を脱ぎ、きょうから一步大人に近づいていくんだな。そんな覚悟を感じたものでした。

きょうは、一つ目に古い人の生き方。二つ目に新しい人の生き方。そして三つ目に、古い人から新しい生き方に変えてくださるキリスト。この三つのことを取り上げていきます。

1 古い人

1) むなしい心

そこでまず一つ目、古い人とはどんな人のことなのか。その特徴について。17節後半にこうあります。「あなたがたはもはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。」古い人の特徴として「むなしい」ということばがあります。「中身がない」とか「目的が定まらない」というような意味でもあります。

自分が救われる前、どんな生活をしていたか、思い出してみましょう。よい学校に入り、よい会社に入り、よい給料をもらい、できれば高い地位に就き、欲しいものを手に入れる。それが幸せだと思っただけで満足していました。ところが人生いつも思い通りにいくわけではない。壁にぶつかって二進も三進も行かなくなって前に進めなくなることがある。あるいは自分の失敗からほかの人に迷惑をかけることもある。どうしたらいいのかと悩んで人に相談すると、ある人からはこうすればよいと言われ、別の人にはまた別のことをアドバイスをされ、言われるままにそのときどきの風に吹かれて右往左往して、いっこうに定まらない。それで結局、問題の解決が長引いてしまったり、かえってひどくなってしまう。これがむなしい心で生きているという意味です。

2) なぜ

まじめに生きてきたつもりなのに、どうしてこんな結果になるのか。一つの例を取り上げます。子

どもの家庭内暴力が社会問題になり始めた頃のことです。ある父親が困り果てて子どもをカウンセラーに連れて行ったそうです。カウンセラーは子どもにこう尋ねた。「どうして暴れるのか。」そうしたら子どもはこう答えた。「親はなんでも自分が欲しいものを買ってくれる。けれども一番大切なものを与えてくれなかった。うちには宗教がない。」こう答えたというのです。宗教と聞くとびっくりしますが、この子はこう言いたかったのでしょう。人の幸せは物やお金では決して得られない。もっと大切なものがあるはずだ。その大切なものを教えて欲しい。聖書に、「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる」(マタイ4章4節)とあります。その子どもは、神のことばとは言わなかったけれど、パン以外の大切なものがあることに気がつき、必死に求めていたのです。

3) 無感覚になる

しかし、パン以外の大切なもの、それはどこにあるのでしょうか。親に教えろと言って暴れても親も知りません。だったら正しいと思う生き方を自分でさがし、自分で道を切り開いていくしかない。私は若いころ、まさにそう思っていた。結局、それでどうなったか。19節。「無感覚になった彼らは、好色に身を任せて、あらゆる不潔な行いを貪るようになっていきます。」22節にも書いてあります。多くの人は、ここに書かれているようなひどいことまではしません、というかもしれない。でもどうでしょうか。正しいと思う基準は自分が決めます。都合が悪いことがあると小さな嘘をついてごまかしたり、相手に伝えるべきことがあるのに隠したり、取り繕ったりしたことはなかったか。最初のうちは、小さな嘘をつくとき心が痛んでいました。でも、何度か繰り返すうちに、うまくいくことに味をしめていきます。どうせみんなもやっていることだとますます大胆になっていく。こうして悪いことをしているとこの感覚が薄れて、無感覚になって平気になる。こうして腐敗していく。これが古い人の特徴です。

2 新しい人

1) 神にかたどり造られた姿

では二番目に、新しい人とはどんな人のことかですが、24節の最後にこうある。「神にかたどり造られた新しい人。」神にかたどり造られた人、それが新しい人だということです。これだけではわからないので、創世記2章27節を思い出しましょう。「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。」私たちは、神がもっている性質を受け継ぐようにして神によって造られました。これが聖書が最初から語っていることです。こういうとある人たちから反論されます。「人間の祖先は、あるとき偶然に発生し、長い時間をかけて進化した存在である。神は関係ない。人はパンだけで生きるのだ。」

さきほどの家の中で暴れる子どもに、この話をしたとします。果たして納得してくれるでしょうか。絶対に納得しないでしょう。今あなたが生きているのは単なる偶然に過ぎない。あなたの生きる価値も偶然からちょっとましなくらいですと言っているようなものだからです。しかし聖書は、私たちは神のかたちに似せて造られて、大変に貴重な存在として神からのちを与えられたものだ書いている。パンでたとえればパン以外にもっと大切なものがあると言っている。

2) 古い人を脱ぎ捨てる

あの家庭内暴力をふるっていた子どもの親は、子どものためを思ってではありましたが、とにかくお金で買える物を与えようとしていました。聖書のことばに倣えば、パンだけで幸せになれると思いい古い人の服を着せようとしていた。けれどもその子どもは、古い人の服で満足できません。古い人の服には、生きるための大切なものが見つからないからです。それで、新しい人の服を着たいと願った。でも、どこに新しい人の服が置いてあるかわからない。そのもどかしさをことばでうまく言い表すことはできません。どうしても暴力というかたちにしてしか表すことができなかつた。そういうことでした。

3 キリスト

1) 新しい人を用意してくださる

では、いったいどこに新しい人の服が置いてあるのでしょうか。世の中には、お金さえあればなんでも手に入ると思っている人がいますが、残念ながら新しい人の服はお金で買えません。答えは20, 21節にあります。「しかしあなたがたは、キリストをそのように学んだものではありません。た

だし、本当にあなたがたがキリストについて聞き、キリストにあつて教えられているとすれば、です。真理はイエスにあるのですから。」

新しい服はキリストが用意してくださいます。どんな服なのでしょう。少し説明が必要です。

2) 着ることによって成長する

まずだれがこの服をいただくかです。これはシンプルです。イエス・キリストを救い主ですと告白した者が、これを着ることになります。イエスご自身が私たちを覆ってくださって、新しくして下さる。私たちはこの方によって日々新しくされ、成長させていただきます。私たちはこの服をすでに来ています。

たとえて言えば、きょうからイエス・キリストという制服を着て、イエス・キリストという学校に通いながらイエス・キリストから学んでいく。もちろんどこかに学校の建物があるという意味ではありません。私たちの生活そのものがキリストを学ぶ学校になります。実際の生活をしていきながら学び、成長していきます。私の弱さをキリストが覆ってくださったので、弱さはもう恥ではありません。そのままキリストに差し出します。

3) とともに喜ぶ

子ども時からずっと「成長しなさい」ときんざん聞かされ、教会でも成長しなさいと言われて、うんざりと思うかもしれません。でもそんなことはないはず。前回の復習になりますが、4章16節で「からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わせられ、つなぎ合わされて（中略）成長する」とありました。私たちは成長ということ、お勉強して、努力してと考えがちです。でも聖書がいう成長は、私たちが考えているのとはちがいます。ひとりで成長するものではありません。ともに成長していきます。仲間がいるということです。ほかの人と一緒に、霊と心においてともに新しくされ続けていく。「ともに」というところが大切です。だれかが弱って歩けなくなっているなら、その人と一緒に立ち止まります。だれかが悲しんでいるなら、その人と一緒に悲しみをともにします。だれかが喜ぶなら、私たちもいっしょに喜ぶ。こうして私たちは手を携えて日々新しくされ、一緒に成長し、あの創造のときに神のかたちとして造られたすばらしい姿にキリストとともに近づいていきます。それをして下さるのは、キリストです。この方は、ご自分のいのちを差し出し、罪のなかから私たちを買い戻してくださいました。そしていま、私たちは教会のから

だの器官として、ともにつなぎ合わされていくので
す。どんな嵐が来ようとも、ここから引き離すこと
はできません。

イエス・キリストの御名をあがめたいと思いま
す。